川崎医療福祉学会誌　Vol. 16　No. 1　2006　179–183

資　料

医療保育科学生と看護科学生における入学時の子どもイメージの比較

岡田恵子[*1]　中新美保子[*2]　谷原政江[*3]

はじめに

平成17年に，全国でも初めてとされる３年課程の医療保育科がＫ医療短期大学に新設された．専門的な医療の知識を備え，保育所や児童福祉施設，病棟でさまざまな病気や障害を持つ乳児や幼児に対応できる保育士を育成することを目的としている．医療的カリキュラムが多く組まれ，３年次には発達障害児実習，病棟実習に行く予定で，２年課程の保育科に比べ健康障害をもった子どもと向き合うことが多い．この医療保育科学生の入学時にもつ子どもイメージが，２，３年次の実習後にどのように変化したかをみることは，学生の子ども理解や意識の深まりを探り，教育内容や学生へのサポートを検討する上で重要であると思われる．

２年課程の保育科学生と看護科学生の子どもイメージの比較研究[1)]をみると，１年次，２年次とも保育科学生は看護科学生よりも肯定的な子どもイメージが強いことが見出されている．また子どもイメージの因子として抽出された生気，たくましさ，性質と解釈できる３因子のうち，保育科学生の子どもイメージは卒業時に，いずれの因子の肯定度も高くなっているが，看護科学生は子どもの活発性，生き生きした感じ，あたたかさ，幸福感などの「生気」に対するイメージは下がったことが報告[1)]されている．この結果は健康な子どもと密に関わる保育科学生と異なり，看護科学生は小児看護の臨地実習で病児と接触するためと考えられている．

医療保育科学生は従来の２年課程の保育科と同様に保育所で実習を行うが，さらに３年次に看護科と同じく病棟での実習を行う．そこで，医療保育科学生の子どもイメージが，保育所実習や病児と接触する病棟実習の後いかに変化するのか，同じ病棟実習を行う看護科学生の子どもイメージとの比較を通して，調査，考察したいと考えた．保育所実習や病棟実習後の子どもイメージの変化をとらえるためには，短大入学時の医療保育科学生と看護科学生の子どもイメージを把握しておくことが必要であるため，今回は，２科の学生の入学時の子どもイメージ，子どもへの親和感情，および子どもとの関わりの有無について調査し検討したので報告する．

研究方法

１．調査対象者と調査時期

対象者は2005年４月に入学したばかりのＫ短期大学医療保育科77名，看護科86名である．そのうち分析対象は，記入漏れや記入ミスがあったものを除外した医療保育科74名，第一看護科85名の計159名であった．調査時期は2005年６月下旬である．

２．調査方法

調査は，研究の趣旨に同意し協力の得られた学生に，授業後質問紙による一斉調査を行った．その際，個人のプライバシーが漏れることがないこと，研究目的以外には使用しないこと，回答は任意であることなどを伝え倫理的配慮に留意した．

３．調査内容

（1）子どもイメージ：学生の持つ子どもイメージについては，矢野ら[2)]が作成した「明るい—暗い」等のプラス—マイナスのイメージを表す形容詞対25組に，さらに学生の子どもイメージを捉えるのに適切と判断した「理解力のある—理解力のない」「言うことをきいてくれる—言うことをきかない」など４項目を加え使用した．それぞれプラスイメージを，＋３：非常に当てはまる，＋２：かなりあてはまる，＋１：やや当てはまる，０：どちらとも言えない，マイナスイメージを－１：やや当てはまる，－２：かなり当てはまる，－３：非常に当てはまる，として得点化し分析した．

（2）子どもに対する親和感情：子どもイメージ尺度[3)]より「子どもと話したい」「子どもに触れた

*1 川崎医療短期大学　医療保育科　*2 川崎医療福祉大学　医療福祉学部　保健看護学科　*3 川崎医療短期大学　第一看護科
（連絡先）岡田恵子　〒701-0194　倉敷市松島316　川崎医療短期大学
E-Mail: ciakeiko@jc.kawasaki-m.ac.jp

い」など子どもへの親和度を測るため4項目を使用した．子どもイメージと同様の測定法を用い7件法で回答を求め得点化した．

（3）子どもとの関わりの有無：この一年間で乳幼児を抱っこしたり遊んだりしたことがあるか，ないか，子どもとの関わりの有無を聞いた．

4．分析方法

1）医療保育科学生と看護科学生の子どもイメージを把握するため，項目ごとに平均値を算出し，t検定により比較した．

2）医療保育科学生の子どもイメージの構造をみるため，重みなし最小二乗法（プロマックス回転）による因子分析を行った．固有値1以上で3因子を抽出し，各因子とも回転後の因子負荷量が0.4以上を示した項目を採用した．

3）看護科学生の子どもイメージの構造をみるため，医療保育科学生と同様の方法で因子分析を行った．

4）医療保育科学生と看護科学生の子どもイメージの因子分析により抽出された因子において，2科に共通して見られた項目の合計得点をそれぞれの科で算出し，t検定で比較した．

5）医療保育科学生と看護科学生の子どもに対する親和感情の程度をみるため，平均値を算出し，t検定で比較した．

6）医療保育科学生と看護科学生の子どもとの関わりの有無を単純集計した．

なお，統計解析ソフトは，SPSS11.OJを使用した．

結　　果

1．医療保育科学生と看護科学生の子どもイメージ得点（図1）

医療保育科学生と看護科学生の子どもイメージ29項目の平均得点を比較したところ，総得点の平均値は医療保育科21.74点(SD 8.18)，看護科17.08点(SD 10.46)で医療保育科学生が有意に高かった（$t = -3.1$ $p<0.01$）．「好きな—嫌いな」「鋭い—鈍い」「気持ちのよい—気持ちの悪い」「頼もしい—弱々しい」「まじめな—ふまじめな」「きちんとした—だらしのない」で有意な差がみられた．

2．医療保育科の子どもイメージの構造（表1）

第I因子は「意欲的な—無気力な」「明るい—暗い」「積極的な—消極的な」「陽気な—陰気な」「活発な—不活発な」「外交的な—内向的な」などの9項目で「活動的イメージ」と名づけた．第II因子は「理解力のある—理解力のない」「きちんとした—だらしのない」「頼もしい—頼りない」「安定した—不安定な」「言うことをきいてくれる—言うことをきかない」「まじめな—ふまじめな」などの10項目で，「性質に関するイメージ」と名づけた．第III因子は「かわいらしい—にくたらしい」「好きな–嫌いな」「気持ちのよい—気持ちの悪い」「良い—悪い」の4項目で，「対子ども感情」と名づけた．

表1　医療保育科学生の子どもイメージに関する因子分析の結果

子どもイメージ			因子I〈活動的イメージ〉	因子II〈性格に関するイメージ〉	因子III〈対子ども感情イメージ〉
意欲的な	—	無気力な	0.62	0.23	0.49
明るい	—	暗い	0.61	0.13	0.03
積極的な	—	消極的な	0.59	0.02	0.04
元気な	—	疲れた	0.58	0.21	0.5
陽気な	—	陰気な	0.56	−0.02	0.35
活発な	—	不活発な	0.53	−0.01	0.22
敏感な	—	鈍感な	0.52	0.13	0.41
外交的な	—	内向的な	0.51	0.2	0.34
愉快な	—	不愉快な	0.45	−0.05	0.34
理解力のある	—	理解力のない	0.15	0.62	0.13
きちんとした	—	だらしのない	0.15	0.61	0.16
頼もしい	—	頼りない	0.24	0.57	0.24
落ち着いた	—	落ち着きのない	−0.31	0.57	0.02
安定した		不安定な	−0.03	0.52	−0.23
たくましい		弱々しい	0.33	0.51	−0.03
言うことをきいてくれる		言うことをきかない	−0.07	0.47	0.01
伝達力のある		伝達力のない	0.07	0.44	0.04
静かな		うるさい	−0.28	0.43	0.09
まじめな	—	ふまじめな	0.13	0.4	0.17
かわいらしい	—	にくたらしい	0.39	0.08	0.75
好きな	—	嫌いな	0.23	−0.01	0.75
気持ちの良い	—	気持ちの悪い	0.25	0.08	0.61
良い	—	悪い	0.11	0.24	0.52
		寄与率(%)	18.72	11.44	6.84
		累積寄与率(%)	18.72	30.16	37.00

3．看護科の子どもイメージの構造（表2）

表2　看護科学生の子どもイメージに関する因子分析の結果

子どもイメージ			因子I〈対子ども感情イメージ〉	因子II〈性格に関するイメージ〉	因子III〈活動的イメージ〉
良い	—	悪い	0.86	0.18	0.31
好きな	—	嫌いな	0.77	0.1	0.32
かわいらしい	—	にくたらしい	0.77	0.16	0.3
愉快な	—	不愉快な	0.68	0.23	0.53
気持ちの良い	—	気持ちの悪い	0.56	0.28	0.36
正直な	—	うそつきな	0.48	0.13	0.38
きちんとした	—	だらしのない	0.2	0.79	−0.11
理解力のある	—	理解力のない	0.16	0.75	−0.06
まじめな	—	ふまじめな	0.04	0.66	0.01
伝達力のある	—	伝達力のない	0.12	0.59	0.11
頼もしい	—	頼りない	0.22	0.58	0.12
言うことをきいてくれる	—	言うことをきかない	23	0.54	−0.18
安定した	—	不安定な	0.08	0.51	−0.15
たくましい	—	弱々しい	0.2	0.46	0.04
陽気な	—	陰気な	0.32	−0.07	0.67
元気な	—	疲れた	0.59	0.07	0.64
明るい	—	暗い	0.54	0.1	0.61
活発な	—	不活発な	0.25	−0.03	0.59
意欲的な	—	無気力な	0.41	0.08	0.57
積極的な	—	消極的な	0.31	0.06	0.55
外交的な	—	内向的な	0.4	0.14	0.53
静かな	—	うるさい	0.05	0.25	−0.51
強気な	—	弱気な	0.27	0.12	0.5
落ち着いた	—	落ち着きのない	0.06	0.44	−0.45
		寄与率(%)	22.33	14.32	5.86
		累積寄与率(%)	22.33	36.65	42.52

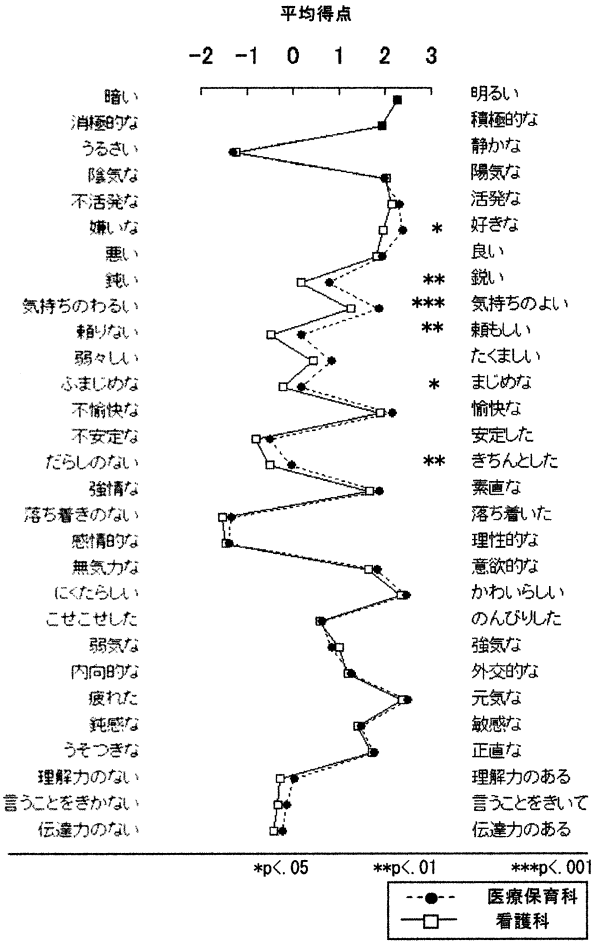

図1　医療保育科学生と看護科学生の項目別子どもイメージ平均得点の比較

第I因子は「良い—悪い」「好きな—嫌いな」「かわいらしい—にくたらしい」「気持ちのよい—気持ちの悪い」など6因子で「対子ども感情」と名づけた．第II因子は「きちんとした—だらしのない」「理解力のある—理解力のない」「まじめな—ふまじめな」「頼もしい—頼りない」「安定した—不安定な」などの8項目で，「性質に関するイメージ」と名づけた．第III因子は「陽気な—陰気な」「明るい—暗い」「活発な—不活発な」「意欲的な—無気力な」「積極的な—消極的な」「外交的な—内向的な」「静かな—うるさい」などの10項目で，「活動的イメージ」と名づけた．

医療保育科学生と看護科学生の子どもイメージの因子群を比較してみると，各因子の項目はほぼ重なっており，因子構造は同じであることが判明した．

4．医療保育科学生と看護科学生の子どもイメージ3因子における共通項目の合計得点の比較（表3）

医療保育科学生と看護科学生の子どもイメージの構造が同じであったことから，抽出された3因子ごとに2科に共通して見られた項目の総合得点を算出し，t検定で比較した結果，「性質に関するイメージ因子」と「対子ども感情」因子に有意差が見られ，医療保育科学生の方が看護科学生よりも得点が高かった．

5．医療保育科学生と看護科学生の子どもへの親和感情の比較（表4）

2科の学生の子どもに対する親和感情の平均得点を比較すると医療保育科学生の方が有意に高かった．

6．医療保育科学生と看護科学生の子どもへの親和感情の比較（表5）

2科の学生の子どもとの関わりの有無の人数を調べ，x^2 検定を行った結果，医療保育科学生と看護科学性では有意な差が見られ，医療保育科学生の方が関わりが有る人数が多かった．（$x^2_{(1)}=9.65$，$p<.01$）．

考　　察

医療保育科学生と看護科学生の子どもイメージ総得点を比較すると，高橋ら[1]の看護科学生と保育科学生の子どもイメージの比較研究で保育科学生の方が看護科学生よりも子どもイメージ得点が高かったのと同様に，医療保育科学生の方が看護科学生よりもイメージ得点が有意に高かった．また，「子ども

表 3　医療保育科学生と看護科学生の子どもイメージ 3 因子における共通項目の合計得点の比較

	医療保育科学生 (n=74)		看護科学生 (n=85)				
	平均得点	ＳＤ	平均得点	ＳＤ	ｔ値	p値	
性質に関するイメージ因子	0.02	0.68	-0.35	0.89	-2.89	0.00	**
対子ども感情イメージ因子	2.16	0.69	1.85	0.92	-2.46	0.02	*
活動的イメージ因子	1.99	0.65	1.93	0.69	-0.61	0.54	

*p<.05　**p<.01

表 4　医療保育科学生と看護科学生の子どもへの親和感情の比較

医療保育科 (n=74)		看護科 (n=85)				
平均得点	SD	平均得点	SD	ｔ値	p値	
2.56	0.59	1.94	1.14	-4.37	0.001	***

*** p<.001

表 5　医療保育科学生と看護科学生の子どもとの関わりの有無の比較

	医療保育科 (n=74)	看護科 (n=85)
関わりが有る	48 (65%)	32 (38%)
関わりが無い	26 (35%)	53 (62%)

に～したい」という親和感情得点においても医療保育科学生が有意に高かった．これは医療保育科学生は入学までに子どもと関わりを持ったことのある学生が多く，自らを子ども好きと自覚し，さらに子どもと関わることを目的に入学していることから，子どもについてもより肯定的イメージを持っていると考えられる．子どもの行動特性の認知やイメージ形成に最も大きく関与するのは，学生の情動反応であると木村[4]が述べているが，看護科学生より医療保育科学生の子どもへの高い親和感情が看護科学生に比べ，より肯定的な子どもイメージを形成しているものと考えられる．

次に，医療保育科学生と看護科学生の子どもイメージの構造を比較してみると，それぞれの科で抽出された 3 つの因子の項目内容はほぼ重なっており，医療保育科学生も看護科学生も子どもイメージの構造は同じであることが判明した．このことは子どもの見方は医療保育科学生と看護科学生は変らないことを示している．

3 因子の中では「性質に関するイメージ」「対子ども感情」因子において医療保育科学生が看護科学生よりも得点が有意に高いことが見出された．「性質に関するイメージ」因子の肯定的内容とは理解力がある，きちんとした，頼もしい，安定した，言うことをきいてくれる，まじめな，などの内容である．これらはしっかりした「いい子」の理想的性質の子ども像とも思われる．「対子ども感情」因子の肯定的内容とはかわいらしい，好きな，気持ちの良いなどの内容である．項目ごとに得点を見ても医療保育科学生と看護科学生で有意な得点差の見られた項目はいずれも「性質に関するイメージ」と「対子ども感情」因子の項目であったことから，子どもの性質を看護科学生より理想的，肯定的にとらえ，子どもに対してより親しみのある肯定的な感情をもっているのが入学時の医療保育科学生の特徴と言えるだろう．

一方，不健康な子どもを看護したいという動機から入学する看護科学生の子どもイメージは，健康障害をもつ子どものイメージが先行してしまい，子どもの弱さや頼りなさ，不安定さの印象が強くなることで，子どもの性質や子どもに対する感情の肯定度が医療保育科学生よりも低くなったと考えられる．しかし高橋ら[1]の研究で，病棟実習後にイメージの肯定度が下がった「生気」のイメージと共通する項目がある，子どもの陽気さ，明るさ，意欲，活発性などの「活動的イメージ」は，今回の入学時の調査では，看護科学生ではむしろ子どもイメージ因子の中で最も平均得点値が高く，医療保育科学生と看護科学生で有意な差はなかった．

医療保育科学生が今後の保育所実習や病児と関わる病棟実習を経験した後，入学時の子どもイメージがどのように変化していくのか，看護科学生との比較を通し，再び検討したいと考えている．

文　　献

1）高橋紀美子，谷原政江, 酒井恒美:看護科および保育科学生の抱く子どものイメージ　—二・三の要因・特に自我構造との関係—．岡山県立大学保健福祉学部紀要，**1**（1），47–52，1994．
2）矢野惠子，佐野和香，宮崎つた子，池田浩子，杉本陽子，我部山キヨ子：育児中の父親・母親の「子ども」イメージ　—1歳6ヵ月児の父母と大学生の父母の世代間比較—．小児保健研究，**62**(6)，657–666，2003．
3）中新美保子，田中七重，山本玉起，難波千恵子，田村千代美，谷原政江，砂田正子，磨家敦子，小野ツルコ：看護学生の自我の発達の度合と実習充実度　—小児に対するイメージ，親和度との関連から—．日本看護協会中国四国地区看護研究学会集録，88–93，1993．
4）木村留美子：子ども観の研究（1）　—SD法による短期大学生の子どもイメージについて—．日本看護科学会誌，**12**（1），50–56，1992．

（平成18年5月20日受理）

Comparison of Images of Children Made by Students at the Time of Enrollment in the Department of Nursing Childcare and the Department of Nursing

Keiko OKADA, Mihoko NAKANII and Masae TANIHARA

(Accepted May 20, 2006)

Key words : image of children, enrolling students, department of nursing child care, department of nursing

Correspondence to : Keiko OKADA
Department of Nursing Childcare
Kawasaki College of Allied, Health Professions
Kurashiki, 701-0194, Japan
E-Mail: ciakeiko@jc.kawasaki-m.ac.jp
(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.16, No.1, 2006 179–183)